

植	物	
防	疫	
講	座	

## 虫害編-29

## フタスジヒメハムシの発生生態と防除

宮城県古川農業試験場 か しん じょう じ  
加 進 丈 二

## はじめに

フタスジヒメハムシ *Medythia nigrobilineata* Motschulsky は、コウチュウ目ハムシ科に属する小形の甲虫である。日本、朝鮮半島、中国東北部、シベリアに分布し、ダイズの害虫として広く知られている（木元・滝沢、1994）。本種は、一般にダイズの食葉性害虫に分類されるが、成虫は葉以外にも茎、花、莢を食害する。特に莢の食害によって生じる黒斑粒の発生は品質低下の要因となり、本種は子実害虫としても重要視されている。また、幼虫はダイズの根に着生する根粒を食害し、生育や収量に影響を及ぼす。

## I 形態

成虫（図-1a）の体長は3~4 mm 前後で、体色は全体に黄褐色を呈する。外観から雌雄を判別するのは難しいが、雌は雄に比べてやや大形であり、特にダイズを摂食して成熟した雌の腹部は鞘翅の外に現れるほど顕著に大きくなる。鞘翅には縦に一对の黒色条斑があり、本種の和名はこの模様由来する。触角は黒褐色を帯びて細長く、体長の3分の2程度の長さがある。卵（図-1b）は直径0.3 mm 前後のやや縦長の球形をしており、黄白色

を呈して表面には網目状の隆線がある。幼虫（図-1c）の体色は白色で、頭部や前胸背、尾節背板は黒褐色を呈する。ふ化直後の体長は1.3 mm 前後であるが、老熟すると4 mm 前後に達する。老熟幼虫は土を固めて土窩を作り、その中で蛹化する。蛹（図-1d）の体長は3 mm 前後で、体色は乳白色である。

## II 生活史

東北地方におけるフタスジヒメハムシの発生活史を模式図（図-2）に示した。東北地方において、ダイズの播種作業は5月下旬から6月上旬に始まる。ダイズの発芽が始まると、成虫はすぐに現れて食害を始める。これらは、前年の夏から秋にかけて発生した成虫で、土中や落葉の下で越冬し、春になって再び地上に現れた越冬後成虫（または越冬世代成虫）である。これらは、子葉、初生葉、本葉と順に現れる葉を次々と食害した後、成熟した雌成虫は茎の地際部や土中に産卵する。幼虫は根に着生した根粒を食害して3齢を経過し、その後土中で蛹化する。この蛹から羽化した成虫が第1世代成虫で、ダイズの開花期前後にあたる7月下旬~8月上旬に発生盛期を迎える。次の第2世代成虫は、子実肥大始期にあたる8月下旬~9月上旬に発生盛期を迎え、若い莢を好んで

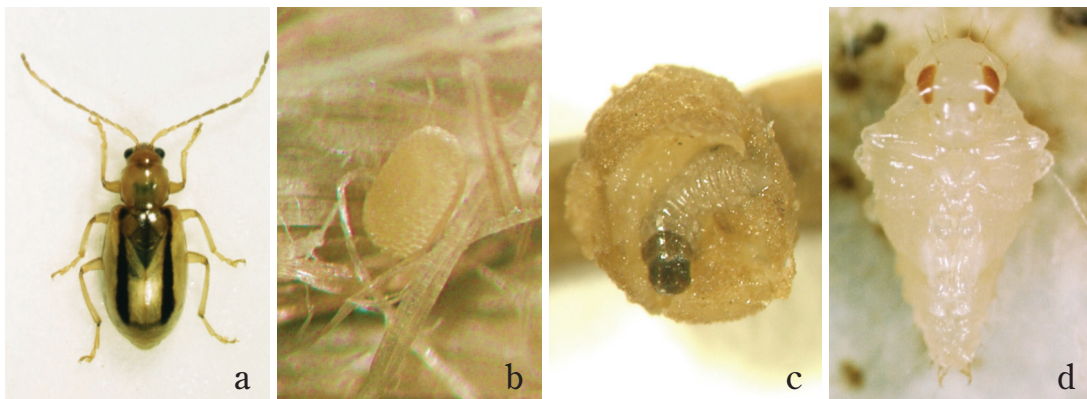


図-1 フタスジヒメハムシの成虫 (a)、卵 (b)、幼虫 (c) および蛹 (d)

Ecology and Management of Two-Striped Leaf Beetle, *Medythia nigrobilineata* on Soybean. By Joji KASHIN

(キーワード：フタスジヒメハムシ、ダイズ、生活史、防除)